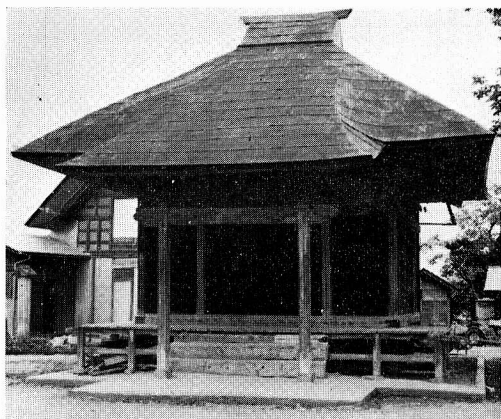


まで六町。

○寺院 観音寺、境内東西十三間、南北十二間、年貢地。村中にあり。真言宗大町一桂院の末寺なり。山号を福聚山と云。何れの頃の開基にか詳ならず、天正三年（一五七五）円智と云僧修補を加え、同十六年（一五八八）兵火の為に炎上し、其後再興して今に至れりと云。本尊弥陀、客殿に安ず。観音堂、境内にあり。此堂も円智が修理せし所にして、兵燹にかかり、其後に再興せしと云。会津三十三所順礼の一なり。

## 二一、出 尻 村



### 堂 蔵 地 の 出 尻

1、水災と寺跡 蓼川が鶴沼川と合流して氾濫する地域が、村西にせまっている。その東縁の低い段丘上が村の位置である。

寛文五年の書上げにみえる、村の西南にあった周り一五〇間ほどの沼は、その河跡の沼であったと思われる。氾濫原には葦が繁り、「慶長年中大守氏郷此所に鷹狩す」とあるのは、氏郷の子秀行でないとな号があわず、文化六年の風土記には、単に昔時といひ直してあるが、田村山の景勝清水と同じく、付近の谷地では鷹狩もできたらうし、渴を癒するにたる清水も湧出していたであろうことは確かである。

貞享二年の書上げにまで「菩提所曹洞宗日根山心光寺」のあったことが記されている。この寺院はその後間もなく河沼郡野沢村藤村に移されて、文化六年の風土記には、単に寺跡としてある。